

高卒者調査速報版

発行： 東京大学社会科学研究所
附属日本社会研究情報センター

第4号 2007.8

高校卒業後の生活と意識に関するアンケート調査」 にご協力いただいたみなさまへ

昨年の秋には、第3回「高校卒業後の生活と意識に関するアンケート」調査にご協力いただき、ありがとうございました。おかげさまで、548人の卒業生のみなさんから回答をいただくことができました。心より感謝申し上げます。

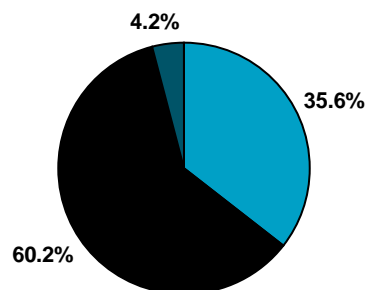
来年(2008年秋)、第4回調査実施を予定しておりますが、それに先立ち、昨年度の調査結果の一部をここに速報版としてお届けします。なお、詳細な結果に関しましては、報告書の形でまとめさせていただきますことになっております。

なお、以下の各図については、特に断りのない限り、回答者の全体は548名となっています。

1. 回答者のプロフィール

2006年10月の進路状況

回答者548名（働いている方195名 学校に通っている方330名 その他の方23名）

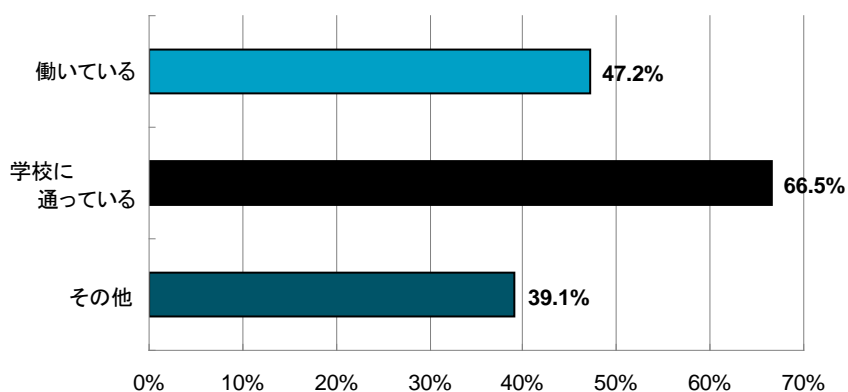


■ 働いている ■ 学校に通っている ■ その他

選択した進路の満足度

今の進路でよかったか～進学すると満足度は高い？

高校卒業後2年半がたち、ご自身の進路選択についてどの程度満足しているのでしょうか。「これまでの進路を振り返って、現在どのように考えていますか」という質問に対して「今の進路でよかった」と回答した割合は、働いている場合47.2%、学校に通っている場合66.5%、その他の場合39.1%となっています。学校に通っている方の満足度が高い傾向は高卒1年半後の調査時点(2005年10月の調査)と同様です。

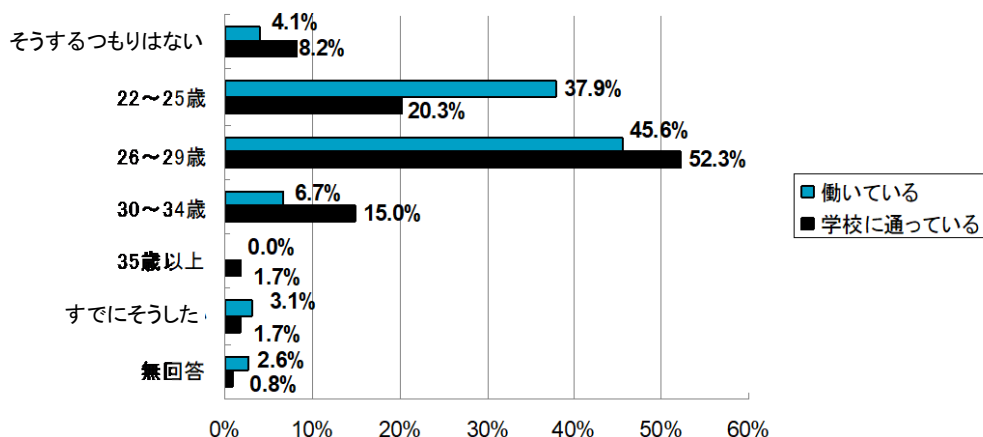


2. 人生について考える！

将来展望

何歳ごろになったときにするか～29歳までには結婚したい！

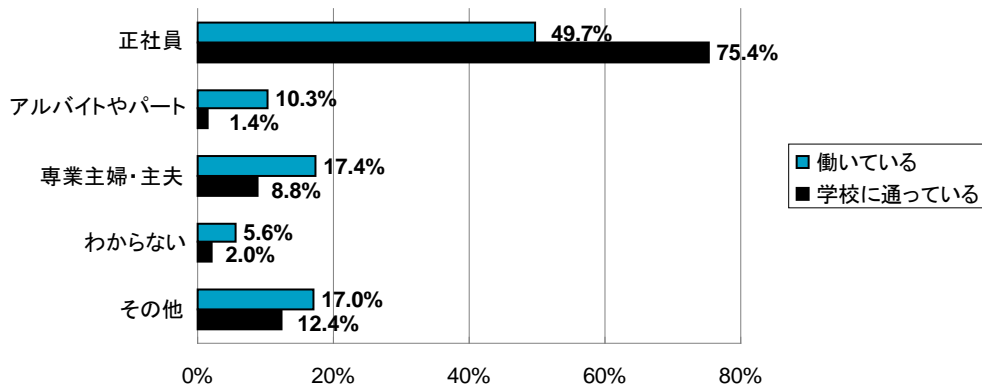
将来の生活について、4つのライフイベント(「アルバイトではない仕事をする」「親と違うところに住む」「結婚する」「最初の子どもを持つ」)を設定して、それぞれの予定を年齢段階でうかがいました。ここでは「結婚」の予定年齢について進路状況別に示しています(ただし、学校に通っている方に、「その他」の進路の方を含めています)。進路状況によって人生設計が大きく異なっているようです。



30 歳ごろの働き方

30 歳ごろになったときに、どのような働き方をしていきたいか～「正社員」を望む若者たち

これから 10 年後の働き方をたずねました。若者の仕事に関わる経済的・社会的状況が決して明るくはない現在、進路状況による違いはあるものの、多くの方が「正社員」という働き方を望んでいます。ただし、現在、働いている方のほうが、「正社員」であり続ける／なることの厳しさを現実的に知りえている分、回答状況が低いのかもかもしれません。

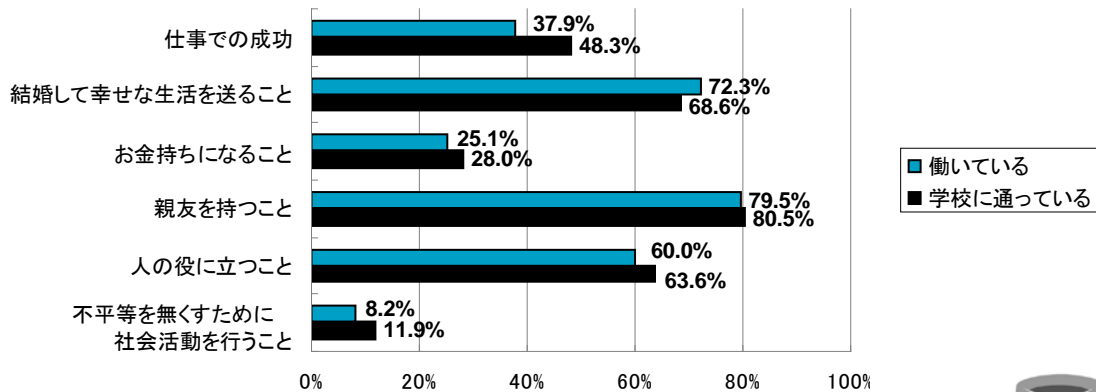


3. 今の自分に目を向けてみる—意識や考え—

あなたにとって大事なこと

次の事からはどれほど重要ですか～最も重要なことは「親友を持つこと」

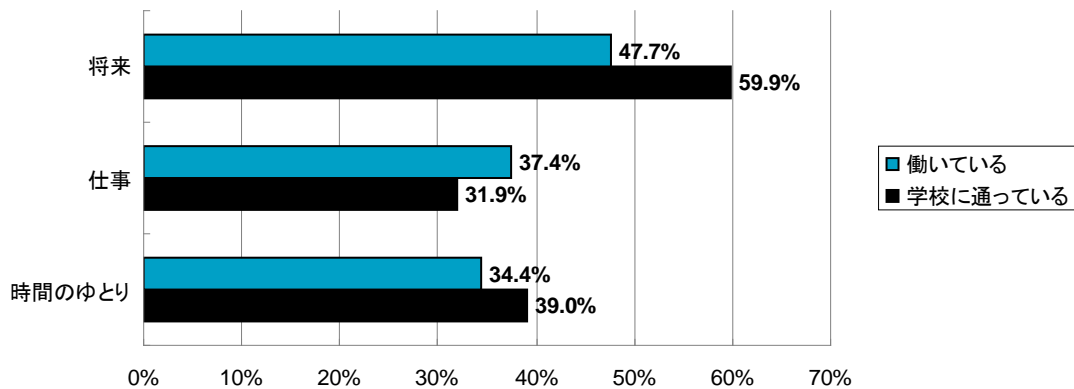
日常生活を営み、また将来について考えていくうえで大事にしているものは何でしょうか。「とても重要」を選択した割合が最も高いのは、進路状況に関わらず、「親友を持つこと」となっています。また、「人の役に立つこと」は 6 割以上の方が「最も重要」と答えていますが、他方で、「不平等をなくすために社会活動を行うこと」は 10%前後にとどまっています。



日常生活における悩み

日常生活で困ったり悩んだりしていること～「将来について」最も悩んでいる

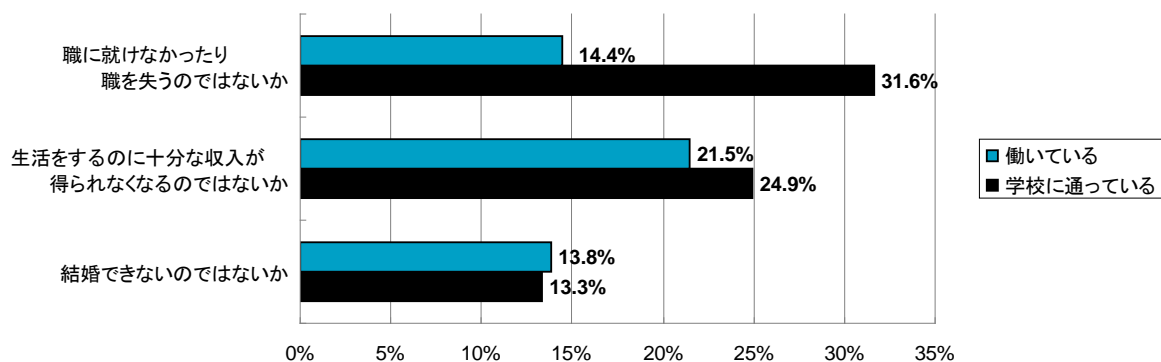
「友だちとの人間関係」「暮らし向き」「恋愛について」などをはじめとして、「日常生活における悩みをうかがいました。設定した9つの項目中、進路状況に関わらず、「将来について」が最も高い数値を示しました。



将来への不安

将来の生活について次のような不安はどのくらいか～収入不足、失職が不安

では、「将来について」の不安とは、具体的にどのようなことなのでしょう。「将来生活に対する不安」をたずねた質問への回答をみると、学校に通っている場合は、「職に就けなかったり、職を失うのではないかと不安が最も高く、働いている場合は「生活するのに十分な収入が得られなくなるのではないかと不安が最も高くなっています。

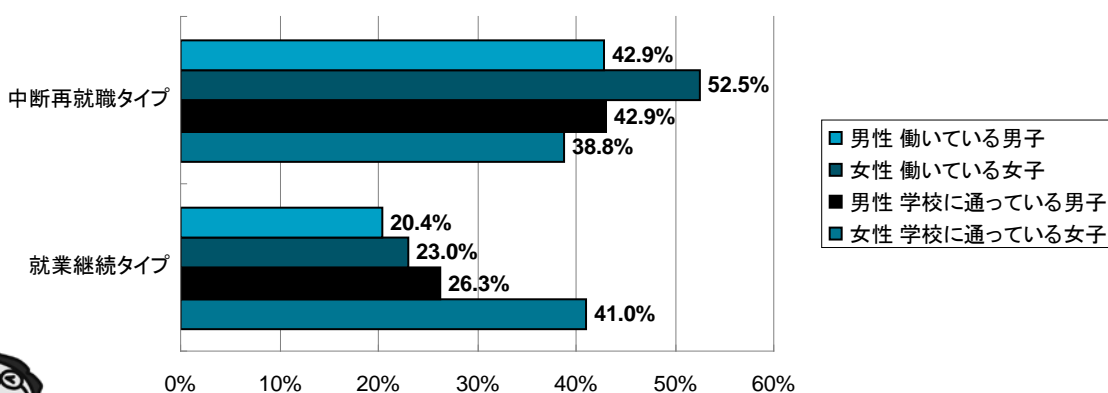


4. 社会に目を向けてみる—意見や知識—

女性の家庭と仕事(回答者 527 名)

女性の、家庭と仕事についての考え～中断再就職タイプを多くが支持

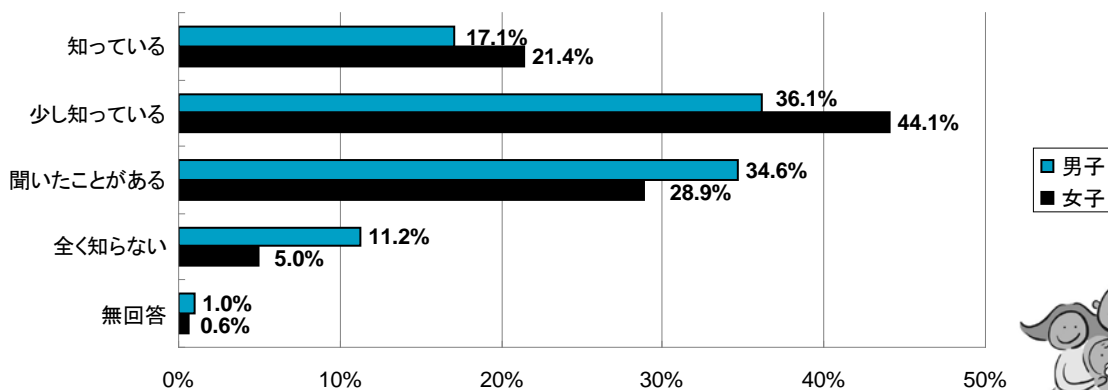
均等法成立から 20 年経過した今、女性の、家庭と仕事についてはどのような考え方が支持されているのでしょうか。回答者が女性の場合は自分自身の希望を、男性の場合は、配偶者になる人に対する希望をうかがいました。現在の進路状況と性別の組み合わせにかかわらず、最も多くの方が選択したのは「子どもができたらいったん仕事をやめ、子どもに手がかからなくなったら仕事をはじめるとい、いわゆる中断再就職タイプでした。なお、学校に通っている女子に限定すると、「結婚して子どもができて、仕事を続ける」という就業継続タイプを支持する割合が中断再就職タイプを支持する割合を上回っています。



家庭と仕事の両立に関する制度についての認知(回答者 527 名)

出産・育児休暇についてどれほど詳しく知っていますか～男女で異なる認知状況

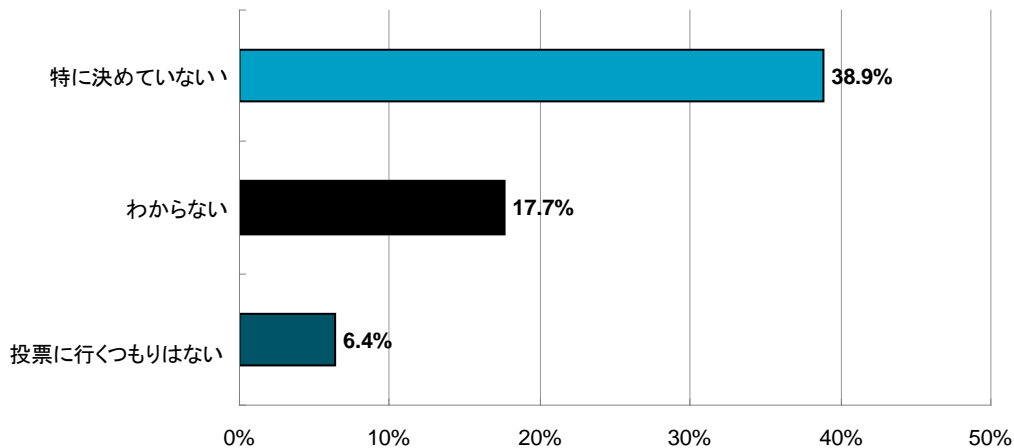
家庭と仕事の両立に関する制度としてさまざまな選択肢が用意されている現在、にもかかわらず、その利用状況は決して高くありません。今後、それらの制度を利用していこうとする若者たちの制度に関する認知状況は重要な意味を持ちます。出産・育児休暇についてみると、女子の知っている割合が高くなっています。



投票行動について

どの政党の候補者に投票したいですか～若者を魅了しない政治

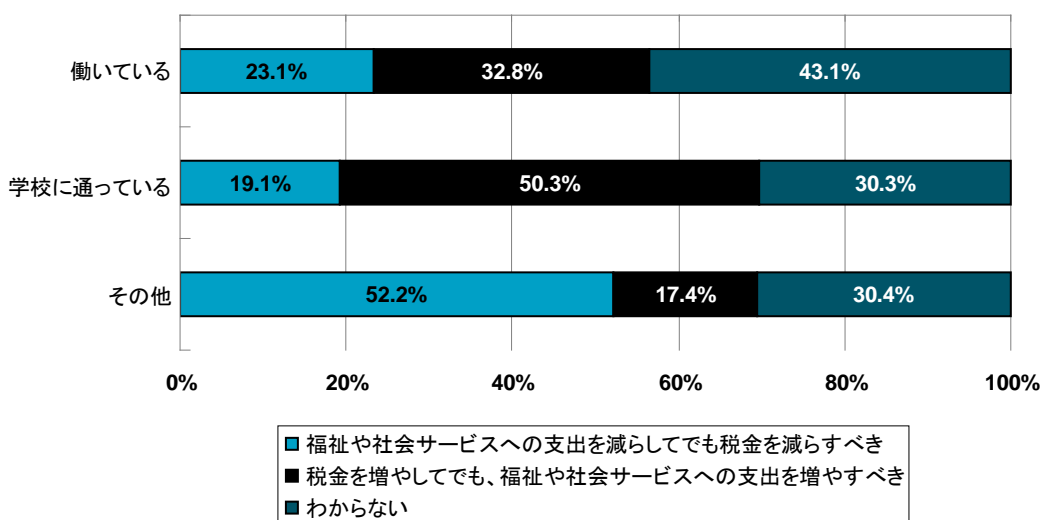
「次の選挙があるとき、次のどの政党の候補者に投票したいか」をたずねた質問で、「特に決めていない」が38.9%、「わからない」が17.7%、「投票に行くつもりはない」が6.4%となっています。



税負担について

税金と福祉・社会サービスに対する支出の関係～進路状況によって大きく異なる意見

税金と福祉・社会サービスに対する支出の関係について、2つの意見を用意しました。進路状況別にみると、学校に通う場合、「税金を増やしても、福祉や社会サービスへの支出を増やすべき」という意見に半数以上が賛成している一方で、働いている場合は、「わからない」という回答が最も多くなっています。フリーターなどその他の進路の場合（ただし、全体数が23名なので参考値）、半数以上が「福祉や社会サービスへの支出を減らしても、税金を減らすべき」に賛成しています。

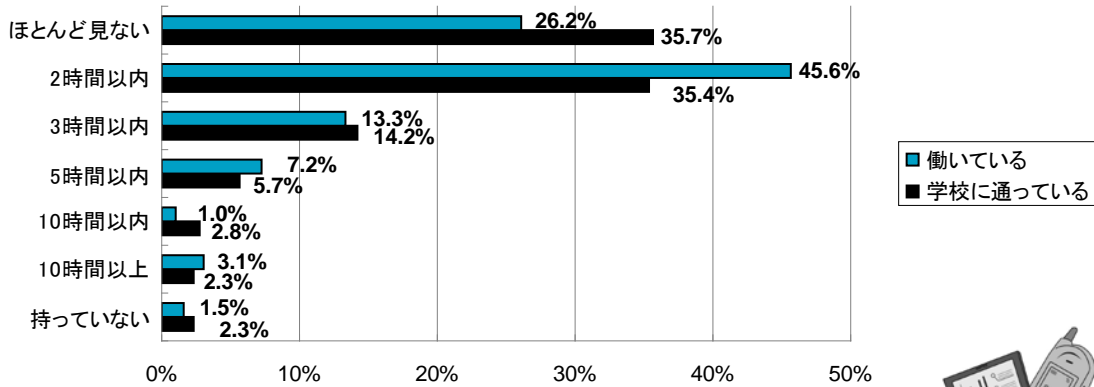


5. 日常生活 どんなふうに住している？

携帯電話でインターネットを利用する時間

インターネット（携帯電話）を1日に何時間利用しますか～4割前後が「2時間以内」

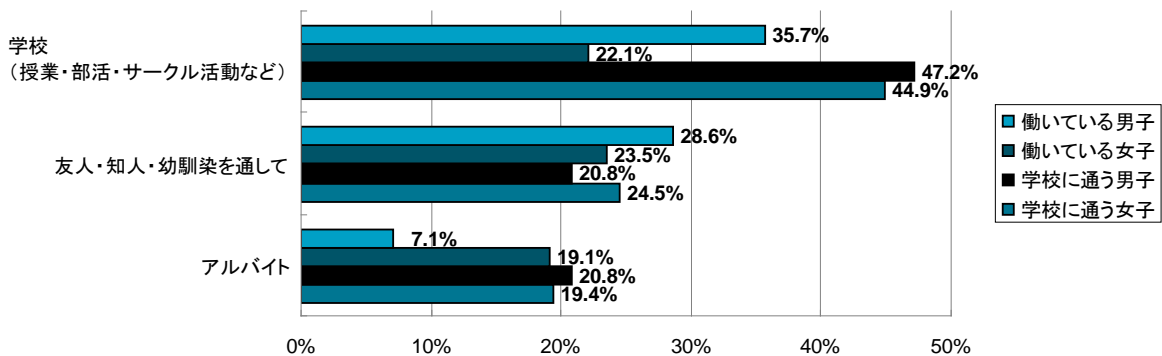
今回の回答者はほとんどが携帯電話を所有しています。そして、「ほとんどみない」は3割前後となっており、4割前後の若者たちは、「2時間以内」の利用となっています。



交際のきっかけ(回答者 233名)

知り合ったきっかけは何ですか（複数回答）～ネットワークは学校、友人、アルバイト

「最近付き合っている(いた)人、あるいは今の配偶者と知り合ったきっかけ」について、上位3つを図に示しました。「学校」という回答が最も多く、「友人・知人・幼馴染を通して」「アルバイト」がそれに続きます。



生活費(回答者 516 名)

生活費をどうやってまかなっていますか～「自立」した大人になることの困難

生活費や学費をどうやってまかなっているかおたずねしました。ここでは、生活費について、進路状況別に示しています。働いていても親からの金銭的援助は欠かすことができない状況にあることがわかります。また、学校に通っていたり、フリーターであっても、完全な親がかりではなく、本人自身が貯金やバイト、奨学金などでまかなっています。

